

(道徳)

豊かな心をはぐくむ道徳授業のあり方

大阪市立五条小学校 藤井玲子 小濱鉄也

1. 研究主題設定の理由

本校は、年々児童数が増えてきており、現在ではその数が800名を超えるにもかかわらず、狭小な校舎・運動場に多くの児童がひしめき合って毎日を過ごしている。そのような環境の中で過ごしている児童が、安心して思う存分個性を磨ける学校をめざして日々取り組んできている。私たちは懸命に取り組んでいるが、やはりいまだに対話する相手の気持ちを理解できず、傷つけてしまったり、好ましくぬ言葉づかいによって、いらぬ争いがおこったりする事象は少なくない。また、いじめ案件や、不登校案件もなくなってはいない。本校の児童にとって、相手の気持ちを考えたり、違いを受け入れたりできる豊かな心情を育てることこそ最も必要なことであると考えた。

そこで、道徳を本校の研究の中心に据え、児童の実態をとらえながら、研究構想の柱を「互いのよさを認め合える好ましい集団を育成する」「思いやりの心を育てる」「マナーの向上を図る」とし、平成26年度より「豊かな心をはぐくむ道徳授業のあり方」について研究を進めてきた。

2. 研究の趣旨

本校では研究主題にある「豊かな心」を「道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度」つまり「道徳性」ととらえ、内省しつつ物事の本質を考える力や何事にも主体性をもって誠実に向き合う意志や態度、豊かな情操をはぐくむことができるような授業を目指して平成26年度より研究に取り組んできている。

道徳の授業の「ねらいの設定」と「学習指導過程の各段階」の2つについて、共通理解をしていきながら研究をすすめていく中で、児童の実態を捉えながら「ねらい」を設定してきたものの、各時間において設定した「ねらい」にせまるために、また、自分のこととして道徳的価値について考えるためには「発問をどうするか」「自分の考えを表現したり交流したりする場をどのようにもつか」についても研究を深める必要があると考えた。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

① 効果的な教材の提示方法や板書を生かす工夫をする。

- ◆ 児童と教材とを出会わせ、想像や共感をかき立て、問題意識をもたせるような教材提示
- ◆ 児童の思考を深める共通のノートとして生かせるような板書

② 授業のねらいに深く関わり、自分の考えをもたせるための発問を工夫する。

- ◆ 児童の心を動かし、多様な考えを引き出し、思考を深める発問

③ 自分の考えを深めるために話し合う、書くなどの表現活動の充実を図る。

- ◆ 児童相互に多様な考えを学び合い、深め合う話し合い活動
- ◆ 道徳的価値に迫るための役割演技や動作化、劇化
- ◆ じっくり考えさせたり、考えをまとめさせたりするための書く活動

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

「豊かな心をはぐくむ道徳授業」をめざして、研究の視点をもとにこれまで研究をすすめてきた。「道徳の時間」においていつも授業の根底には「主題」があり、「ねらい」にせまるためには、どのように授業を組み立て、進めていけばよいか考えることが大切であることがわかった。また、道徳的価値の理解を基にして、「ねらい」にせまるためにはどのようにすればよいかについて、研究の視点を基にいろいろ考えることができた。

道徳は平成 30 年度より特別な教科道徳として実施されることとなっている。「特別な教科道徳」になっていく経緯の中で、量的課題・質的課題があげられており、これらは本校においても課題として捉えられるものでもあった。

そのため、本校においても年間 35 単位時間「道徳の時間」を確実に確保するという量的確保はもちろんのこと、児童一人一人が、答えが一つではない道徳的な課題を自分の問題として捉え向き合う「考え、議論する道徳」への質的転換に向けて、どのように授業を組み立てるのかについて研究をすすめることができた。

また、毎年 Q-U を実施したり、学期に最低 1 回は児童個人と担任が話をする時間を設けたりして児童の実態を把握するとともに、学級などの課題にいち早く気づくことができるよう取り組んできた。

その結果、「道徳の時間」では、児童の実態に合わせて、教材の内容をどのようにすすめていくかについて、各学年でよく考えて授業に取り組むことができた。

また、道徳的価値の理解を基にして、自分の考えをもち、友達の多様な考えを知ることが大切にした授業になるよう工夫することができた。

(2) 今後の課題

今年度、子どもたちに対して道徳に関して意識調査を行ったところ、年度当初に比べて、道徳的諸価値における価値理解がすすんできていると考えられる。しかし、「自分によいところがある」など、自尊感情に対して比較的低い結果が出てきており、自分のよさに気付いたり、自分に対して自信をもつことができたりするような内容についても意識して授業をすすめていく必要があると考える。

今後も、児童の実態を把握しながら多様な考えを交流し、自己を見つめていくような「豊かな心をはぐくむ授業」をめざして、取り組んでいきたい。